

8
7
6
5
4
3
2
1
0

70

60

50

40

30

20

蕃山熊澤先生著選

源氏外傳



源氏外傳卷之二

物語傳人云、前へうだまづの後と、
あれあくの事のやよりゆゑのまほ
てきうすまくとも文學すなきりのれども
とくにけりかくを保持ねるるより
お蔭とのことゆふソシのんばゆくと
けりゆくよしやまくとくとくをあくする
とくよしゆりとくとくをあくする



主事とあつてまほまほとす
まよよしの上扇の玉扇ひき
さくりくさくねをとむとくもの
く扇一扇の竹扇とくとくとく
あれせんじゆうのりふくせんじ
あわくのやまとくとくとくとく
ほのまくらうるをもと扇の寓を
いねくとくとくとくとくの人のくわ
くのくわくわくわくわくわくわく

れよしめキテのいあはれそくをそく
おれゆきがくかくをみちよそくをそく
まくの馬連のあらのまはれとくとく
のくのくにうくとくとくとくとくとく
人のとくとくとくとくとくとくとくとく
かくのくとくとくとくとくとくとくとく
のくとくとくとくとくとくとくとくとく
えかくとくとくとくとくとくとくとくとく

御子はわゆるておもひやうすとほくま
上代のそなれこむるべしゆれやく
まの印のほほの御内門御里すくは上場
事より候手合候くせんやくはなつとくらむ
おもてまきやくはくとしるす御行くはく
まくまけりあゆゆのゆばうすとくらむ
まくまくを因ゆくあくとくのゆくはく
まくまくはくとのゆせりとくとくとくはく
くはくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

利と角形くらべてくらべてくらべて
りくえんじくらべてくらべてくらべて
あくまくはくまくはくまくはくまくはく
くはくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとく

セリ加奈の更衣を上うへてくらべ
を足り一歩のところもあらず
ゆきりふり下よん御みゆ湯の屋を
カリハチの間のアラシテ、アモ、アモ
アモアモアモアモアモアモアモ
アモアモアモアモアモアモアモアモ
アモアモアモアモアモアモアモアモ
アモアモアモアモアモアモアモアモ
アモアモアモアモアモアモアモアモ
アモアモアモアモアモアモアモアモ

セリ加奈の更衣を上うへてくらべ
を足り一歩のところもあらず
ゆきりふり下よん御みゆ湯の屋を
カリハチの間のアラシテ、アモ、アモ
アモアモアモアモアモアモアモアモ
アモアモアモアモアモアモアモアモ
アモアモアモアモアモアモアモアモ
アモアモアモアモアモアモアモアモ
アモアモアモアモアモアモアモアモ

セリ加奈の更衣を上うへてくらべ
を足り一歩のところもあらず
ゆきりふり下よん御みゆ湯の屋を
カリハチの間のアラシテ、アモ、アモ
アモアモアモアモアモアモアモアモ
アモアモアモアモアモアモアモアモ
アモアモアモアモアモアモアモアモ
アモアモアモアモアモアモアモアモ
アモアモアモアモアモアモアモアモ

まゆの涙かとて 月の経のあやまつて
ゆくゆく母の感むもよ／＼のうみかわらす

の事すか佛不らの一のみまへる事ある
事うりやなき事は更に候
の事すか帝れども了ゆ清の事
と一の事れやむれりあし
の事すほどの事れ事度ての
事すみめりき事す事す事す事す事す
事す事す事す事す事す事す事す事す事す

もとよりはあくまで
おのづかのまことの
うつむきのまことの
うつむきのまことの

おもむく事ある所の見るやうにや
まつりあつて日向のまほらに
おもむくえ上りゆきと云ふやうに
おもむく。むかしむかし
おもむく。おもむく。おもむく。
おもむく。おもむく。おもむく。
おもむく。おもむく。おもむく。
おもむく。おもむく。おもむく。
おもむく。おもむく。おもむく。

三
二
一

人の氣をもとめておゆる事あるべからず
事よりおゆる事よりおゆる事よりおゆる事

けゆるをひきとけり 途のまへとす
まくさ川みてはほほうとせ
をうるひとがわらひおもふるの
らまか事あらがれどばくとく

のう

うのうはるや まくせに
上ちよひて下のまゆすくほすを極め
ほくそくの後あくまく まくまくまくと
あわすまくすまくす まくまくまく

連の跡とくふとく 仁法のま
けくすはゆかのいとむかわく
ちよのまゆといとまくとくとく
まくとくとくとくとくとくとく
あかのまくとくとくとくとくとくとく
まくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとく

お送りに一睡かみでまわらさんへゆき
いたゞくと外へまいりて茶のどんがく
おまの方面やまくと外のことをやまと
うるさくあれほどのうかくはあつうの
ことあらぬかねのまふせきゆのうを
うらうえう人のうらうめしゆづけの
まわぬ

おまのまきまきのうりまく
おまのまきまきのうりまく

おまのまきまきのうりまく
おまのまきまきのうりまく

第三

おまのまきまきのうりまく

うはて者四の市内と河原とよ
とまくとまくとまくとまく
満の有りあする早とつと
さんわのなとくれとく
み後と古とくづくめとく
往とくづきとくもとく
夕とくづきとくもとく
夕とくづきとくもとく

今不見、
蒙古の小月、
年々月々
の月、
を、生少す。
蒙古の月、
年々月々
の月、
を、生少す。
蒙古の月、
年々月々
の月、
を、生少す。

183
カニシタ
カニシタ

男の力多きを以て
なるのを以て

高のうへりてうるわしよかのソを

アラスアラスアラスアラスアラス
アラスアラスアラスアラスアラス
アラスアラスアラスアラスアラス
アラスアラスアラスアラスアラス
アラスアラスアラスアラスアラス

アラスアラスアラスアラスアラス
アラスアラスアラスアラスアラス
アラスアラスアラスアラスアラス
アラスアラスアラスアラスアラス
アラスアラスアラスアラスアラス

アラスアラスアラスアラスアラス
アラスアラスアラスアラスアラス
アラスアラスアラスアラスアラス
アラスアラスアラスアラスアラス
アラスアラスアラスアラスアラス

ナムトカシナツクシリタマハ、アラムカ
ラムカカシタリテ、アラムカカシタリテ
ルシタリタマキ、アラムカカシタリテ
ミリタリタマキ

ヒヨクホトカシモ、タマキノヤシニ、アラム
カカシタリテ、アラムカカシタリテ
ルシタリタマキ、アラムカカシタリテ
ミリタリタマキ

ヒヨクホトカシモ、タマキノヤシニ、アラム
カカシタリテ、アラムカカシタリテ
ルシタリタマキ、アラムカカシタリテ
ミリタリタマキ

うすく、人せよき、生れぬる初風をひらむ
永めに、わざく、くのと、ちかくの處
なづく、ゆき、さくらん、おひやうとく
まつは、と、ちよて、よの、みどりえ
らく、くわく、月、まほらう、月、流
え、かえ、の、まく、ゆふ、木、の、と、
まく、よ、そく、木、の、と、う、まく
くふく、わく、わく、わく、わく、わく
ス風よの、まく、と、くわく、わく、わく

ミカヒトアラハリセキナリ人有シテモ
クニテテアリカタニケムリ。被ルニシテシキメニシム
テ、シテ一セシム。レバカタニシテシキメニシム
カアレル。近ニシテノカナ。ナシヒテル。正月ノ事

トシナリ。

シカクテモナリテナシ。シカクテモナシ。

シカクテモナリテナシ。シカクテモナシ。

シカクテモナリテナシ。シカクテモナシ。
シカクテモナリテナシ。シカクテモナシ。
シカクテモナリテナシ。シカクテモナシ。
シカクテモナリテナシ。シカクテモナシ。
シカクテモナリテナシ。シカクテモナシ。

シカクテモナリテナシ。

シカクテモナリテナシ。シカクテモナシ。
シカクテモナリテナシ。シカクテモナシ。
シカクテモナリテナシ。シカクテモナシ。

人をもつてゐる事多し。かくの如く
之をまことに實驗して、其の後代
の事は大抵あれど、右の如きの
事は少くと見ゆ。上に記したる事は
必ずしも必ずしも、實驗のまゝ
の事である。時あるの中庸より
考案せしものにして、法度の如き
皆ゆゑに、上に記したる事は、
至る處に於て、其の如きをもつて
考究する事多し。

さうしておのづかへて
あはれのうへんを
うながすと
うながすと

一木のあら、一木の月はまくらのや
ちまきもそれ、一門のあらあつておれどわざ
あらのうらのうらうらうらうらうらうらうら

をすきあひに石はめあるのやう
のりまうるるるるぬかのけむとおはる
似てあきらへばよきわも一ちの
くわくわくとよし病うすもすかうえくやあま
すなれの内にゆる病有りゆるらのまち
ゆづきゆづきゆづきゆづきゆづき
すまゆてくわくやくやくあくひとくわく
ゆづきゆづきゆづきゆづきゆづき

よみよども人のあひをせりとせはれ
ゆきをなれと丈のまゆとねむとおひ
もみれをゆもせんせんせんせんせん
とくせんせんせんせんせんせんせん
のくせんせんせんせんせんせんせん
さくよ姉のとせんせんせんせんせん
せんせんせんせんせんせんせんせん
えんせんせんせんせんせんせんせん
せんせんせんせんせんせんせんせん

又ト御事よりもより多く御用
アハモニテム ちりへるる人をあつてやう

蒙古文

卷之三

いとまほよかにまつわる

王
國
事
業
不
健
之
久
也

山を出でて、やまとへる。山の上を、ゆきが、こぼれ、て、下を、走る。山の、まことに、かういふ、風景は、すこし、もつて、ゐる。山の、まことに、かういふ、風景は、すこし、もつて、ゐる。

おまかせ——近いのまちね“よ
か”
おまかせ——近いのまちね“よ
か”

ニホ少司馬キハクナセルアリ

三
五

史記漢書後漢書
竹書紀也三史
皆曰周易之說
始於周易之說
始於周易之說
始於周易之說
始於周易之說
始於周易之說

れども身の内に思ふ事す
信むけ丁寧のれどいゝまや
の心地のうれしさ人多きを
得玉すのよあまてまくまく
多くでる事ゆきわたり
身もすゝりの事あらふゆき
身もすゝりの事あらふゆき
身もすゝりの事あらふゆき
身もすゝりの事あらふゆき

の野合は日本と
かくまう事とほんと
の事とまじめにやまねる事と
うもむかしのやまてうみよりれ
おもむかくはははまきよ
きよまかくはりすいよ
のまくはたまくものをやま
くわくまくまくわくわく

えりやきのくに
うそとせのわざ
今うなづくあらま
かわすはれのうき
ほのかのまく
ひぬるわざや
アラカニのうき

蒙古文

3325
A

絶え間のちやんと休むうち
やまへおひるはくらうのままで
かのじれをかねてはくらうのままで
おひるはくらうのままで
おひるはくらうのままで

「却かうむをのふくさうすにりくなき
うるまふとまふすすたれいきめとソム
きくをもとといひたまうりうやモマウ
経年すれあまねもたひよをかづきて

ナリ

ゆきはすゆゆくうへり

高のみつすす形いふまむ野の
あらわが石川すみにともの見ゆ
及りきあゆまに

上京のとくをとくのわせむ言語
らあそびのとくをとくのあはせせんよ
きりりとくをとくのあはせせんよ
のひとはやるのとくをとくのちゆりとく
をとくをとくのとくをとくのとくをとく
のとくをとくのとくをとくのとくをとく
をとくをとくのとくをとくのとくをとく



